

愛西市
子ども・子育て支援事業に関する
アンケート調査結果報告書

令和6年3月
愛知県 愛西市

目 次

第1章 調査実施の概要	3
1 調査の目的	3
2 調査の設計	3
3 調査票の配布と回収状況	4
4 報告書の見方について	4
5 就学前・小学生の調査対象者の属性、家族状況	6
第2章 子育て家庭を取り巻く環境	11
1 子育ての環境について	11
2 保護者の就労状況	19
3 子育て家庭を取り巻く環境における分析、課題	27
第3章 子育て支援サービスの現状と今後の利用希望	31
1 就学前児童の平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望 ...	31
2 就学前児童の地域の子育て支援事業の利用状況	39
3 就学前児童の休日の定期的な教育・保育事業の利用希望	47
4 就学前児童の病児・病後児保育事業の潜在ニーズ	52
5 就学前児童の不定期の一時保育の利用について	59
6 放課後の過ごし方について	67
7 子育て支援サービスの現状と今後の利用希望における分析、課題	86
第4章 育児休業制度の利用状況	91
1 育児と仕事の両立支援制度について	91
2 育児休業制度の利用状況における分析、課題	99
第5章 子育ての環境や支援の満足度	103
1 子育て家庭の暮らし向きについて	103
2 市に望む子育て支援策	128
3 子育ての環境や支援の満足度における分析、課題	129
第6章 若者の生活実態調査結果	133
1 若者調査対象者の属性、家族状況	133
2 ふだんの生活について	136
3 家庭や家族のことについて	143
4 若者の生活実態調査結果における分析、課題	156

第1章

調査実施の概要

第1章 調査実施の概要

1 調査の目的

本市では、「子ども・子育て支援法」に基づき、令和2年3月に「第2期 愛西市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、様々な子育て支援事業に取り組んでおります。

この度、「第3期 愛西市子ども・子育て支援事業計画（仮称）」（令和7年度～11年度）を策定するにあたり、保護者の方に子育てやサービス利用に関する状況や利用希望、家庭状況や子どもの生活等の実態・ご意見等を把握するためにアンケート調査を実施いたします。

2 調査の設計

調査票は調査対象者別に作成しており、各調査の件数及び調査期間、方法は、以下のとおりです。

■ 調査票の種類と調査対象者及び調査の実施方法

①調査票「愛西市 子ども・子育て支援事業に関するアンケート調査【就学前児童保護者用】」	
調査対象者	愛西市に居住する就学前児童の保護者から無作為抽出
調査票配布数	1,000人
調査期間	令和6年1月16日～令和6年2月13日
調査方法	郵送配布後、郵送回収またはWeb回答
②調査票「愛西市 子ども・子育て支援事業に関するアンケート調査【就学児童保護者用】」	
調査対象者	愛西市に居住する小学生の保護者から無作為抽出
調査票配布数	1,000人
調査期間	令和6年1月16日～令和6年2月13日
調査方法	郵送配布後、郵送回収またはWeb回答
③調査票「若者の生活実態に関するアンケート調査【若者用】」	
調査対象者	愛西市に居住する中学生・高校生から無作為抽出
調査票配布数	1,000人
調査期間	令和6年1月16日～令和6年2月13日
調査方法	郵送配布後、郵送回収またはWeb回答

3 調査票の配布と回収状況

調査によるそれぞれの配布、回収状況は、以下のとおりです。

■ 調査票の配布、回収状況

調査対象者	配布数(人)	回収数(人)	回収率(%)
就学前児童の保護者	1,000	482	48.2
小学生の保護者	1,000	485	48.5
中学生・高校生	1,000	337	33.7

4 報告書の見方について

(1) 年齢、学年の定義

就学前児童、小学生の年齢定義は、アンケート調査において誕生日の年月を回答しているため、下表による年齢区分により集計を行いました。

就学前児童

年齢区分	該当する生年月
0歳	2023年4月以降
1歳	2022年4月～2023年3月
2歳	2021年4月～2022年3月
3歳	2020年4月～2021年3月
4歳	2019年4月～2020年3月
5歳	2018年4月～2019年3月
6歳	2017年4月～2018年3月

小学生

年齢(学年)区分	該当する生年月
7歳(1年生)	2016年4月～2017年3月
8歳(2年生)	2015年4月～2016年3月
9歳(3年生)	2014年4月～2015年3月
10歳(4年生)	2013年4月～2014年3月
11歳(5年生)	2012年4月～2013年3月
12歳(6年生)	2011年4月～2012年3月

(注) 調査期間【2023年度】における年齢定義

(2) 電算処理の注意点

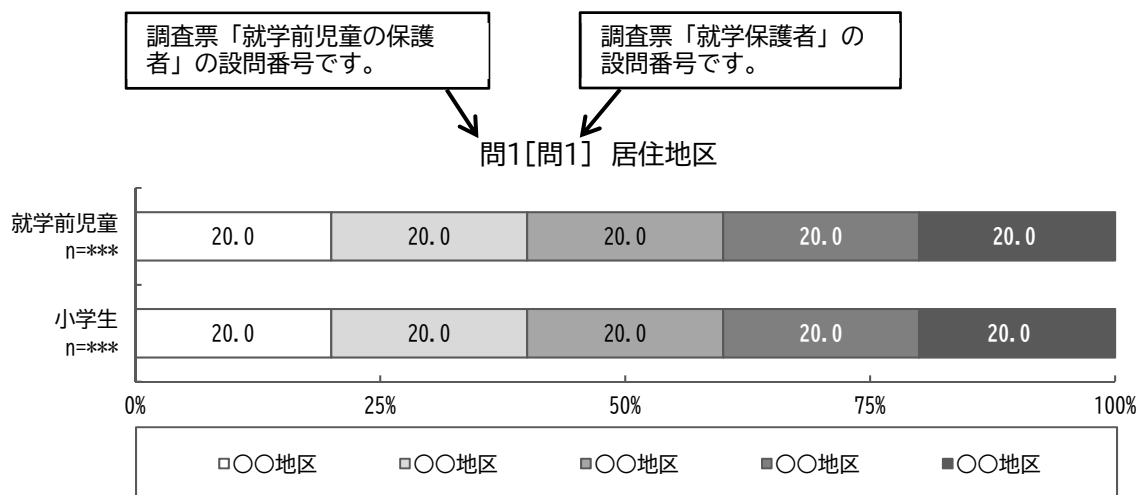
調査結果の数値については小数点第2位以下を四捨五入しているため、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。

なお、基数となる実数は「n」として掲載し、各グラフや表の比率は「n」を母数とした割合を示しています。

また、複数回答が可能な設問では、各項目の割合の合計が100%を超える場合があります。

(3) グラフの見方について

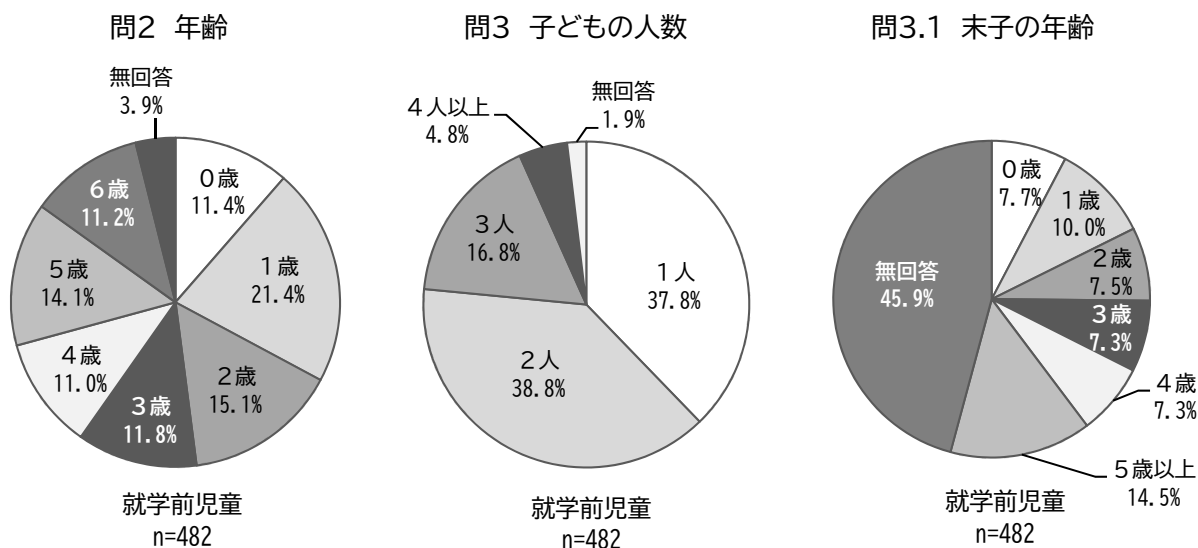
本報告書では「就学前児童保護者」については「就学前児童保護者」、「就学保護者」については、「小学生」と表記しています。



5 就学前・小学生の調査対象者の属性、家族状況

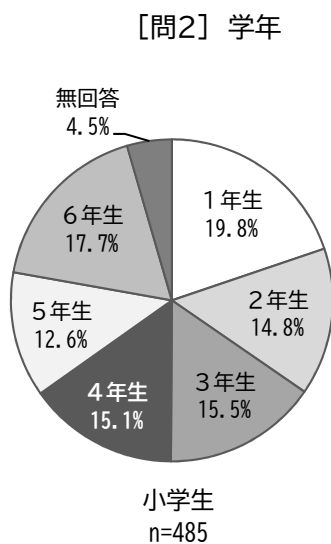
(1) 就学前児童の属性

○回答された482人の就学前児童の属性は、以下のとおりです。



(2) 小学生の属性

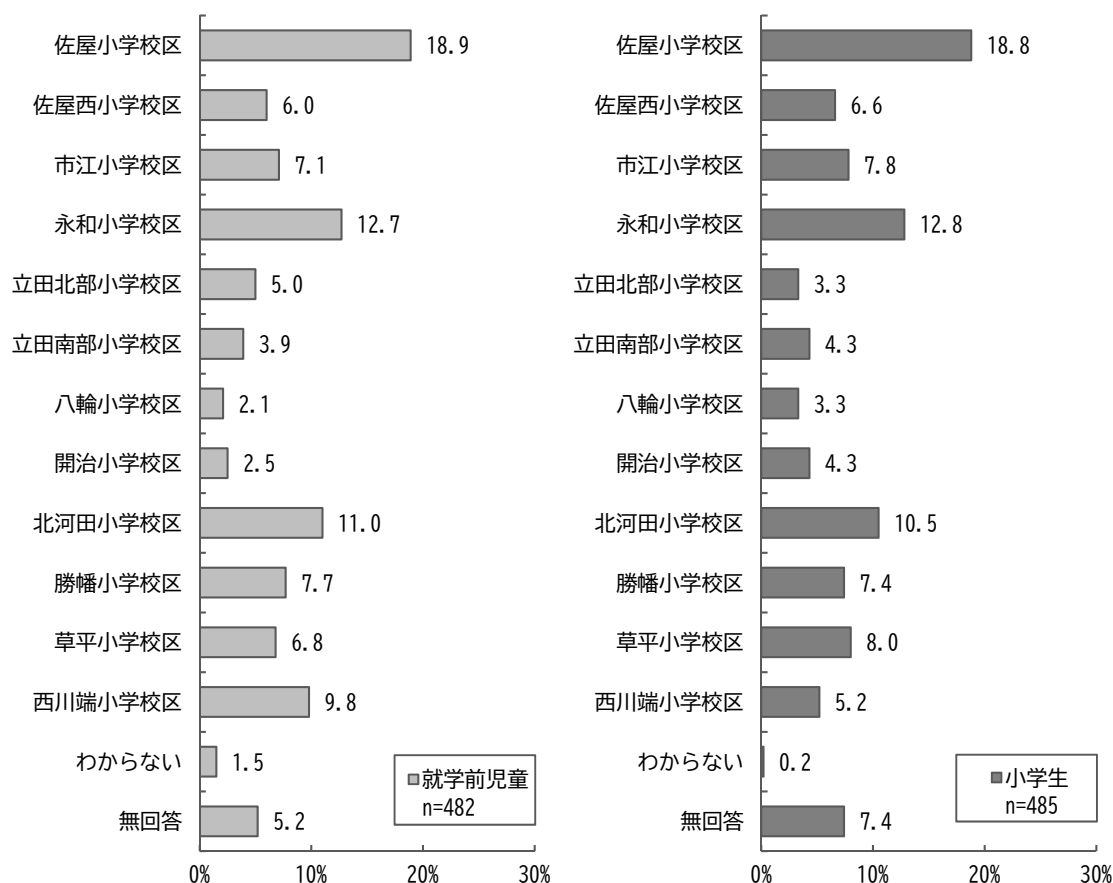
○回答された485人の小学生の属性は、以下のとおりです。



(3) 居住地域の状況

○回答者が居住する小学校区は、以下のとおりです。

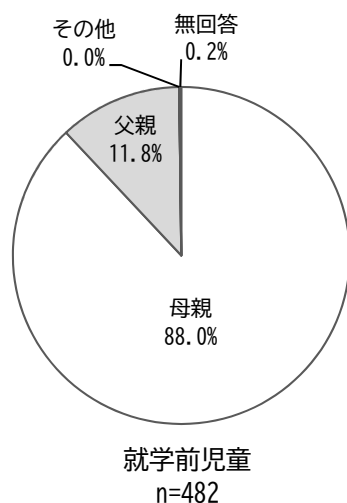
問1[問1] 居住小学校区



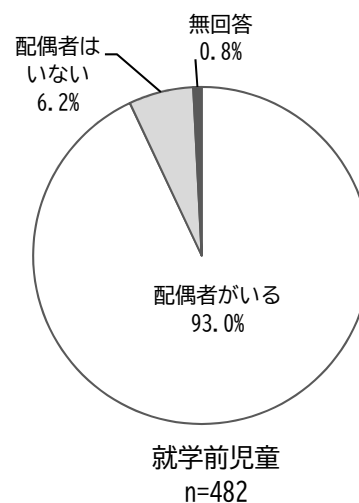
(4) 調査回答者の状況と配偶者の有無

○この調査の回答者は、以下のとおりです。

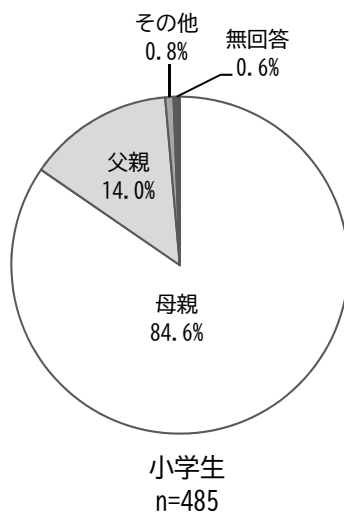
問4 調査回答者(就学前児童)



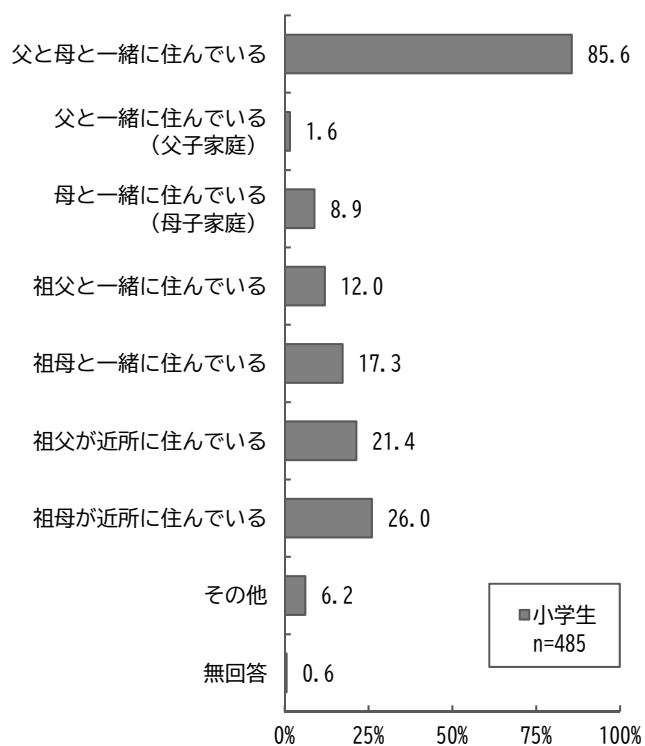
問5 配偶者の有無(就学前児童)



〔問3〕 調査回答者(小学生)



〔問 4〕 一緒に住んでいる人、近所に祖父母が住んでいるか（小学生）（複数回答）



第2章

子育て家庭を取り巻く環境

第2章 子育て家庭を取り巻く環境

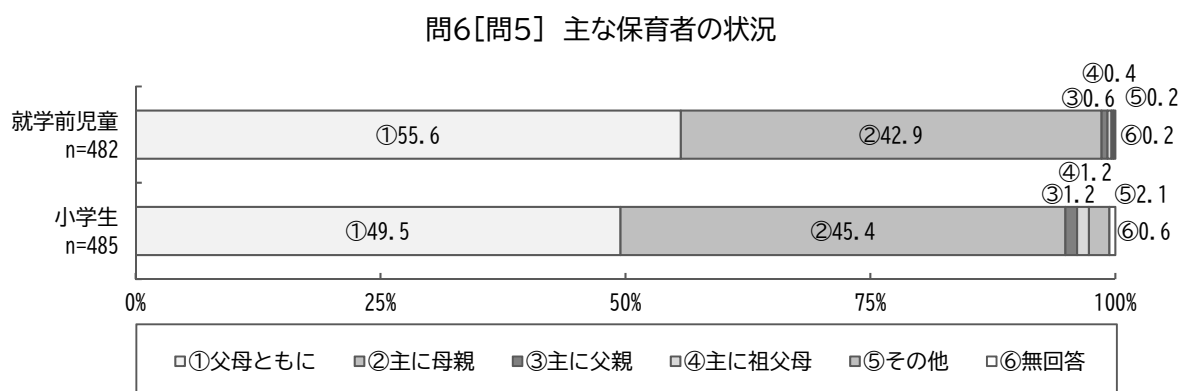
1 子育ての環境について

(1) 主な保育者と親族等協力者の状況

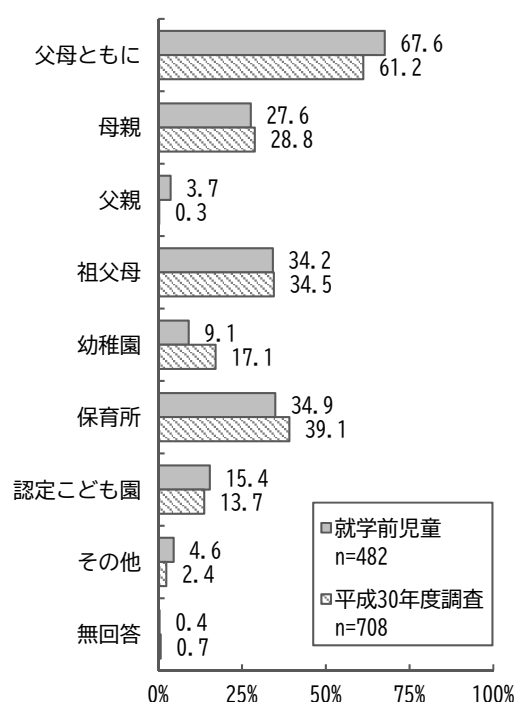
○主な保育者の状況をみると、就学前児童、小学生いずれも「父母ともに」「主に母親」が9割以上を占めています。

○日常的に子育てに関わっている方（施設含む）をみると、就学前児童では、「父母ともに」（67.6%）が最も高く、次いで「保育所」（34.9%）、「祖父母」（34.2%）となっています。

○前回調査と比較すると、特に「父母ともに」「父親」の割合が増加し、「幼稚園」の割合が減少しています。



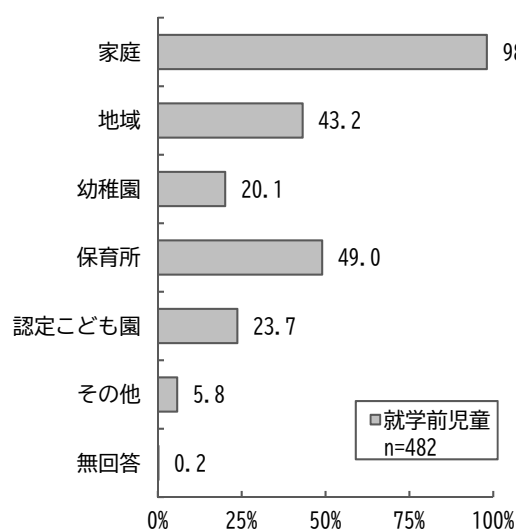
問7 子育てに日常的に関わっている方(施設含む)(経年比較)(複数回答)



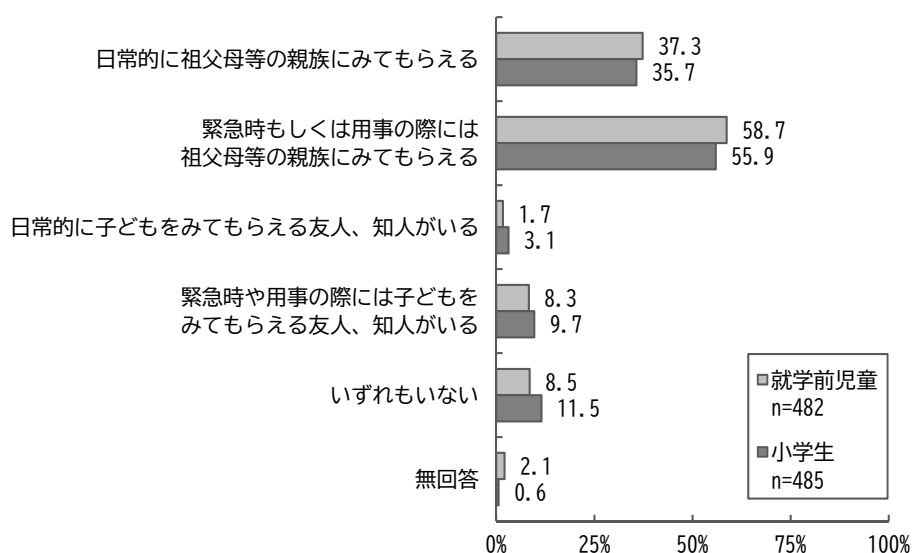
○子育てに影響を与える環境をみると、就学前児童では「家庭」(98.1%)が最も高く、次いで「保育所」(49.0%)、「地域」(43.2%)となっています。

○親族、知人等の協力者の状況をみると、就学前児童、小学生いずれも「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」(就学前児童58.7%、小学生55.9%)、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」(就学前児童37.3%、小学生35.7%)と回答した方が多い一方で、「いずれもない」と回答した方が就学前児童8.5%、小学生保護者11.5%となっています。

問8 子育てに影響を与えると思う環境(複数回答)



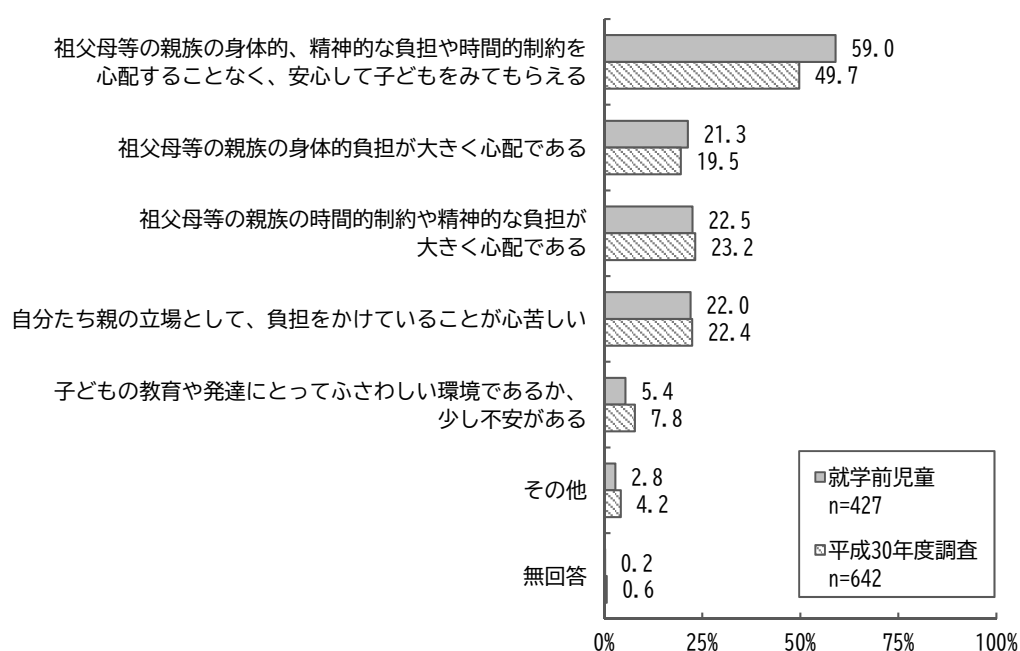
問9[問6] 親族、知人等の協力者の状況(複数回答)



○祖父母等の親族に子どもをみてもらっている状況をみると、就学前児童では「祖父母等の親族の身体的、精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」(59.0%)が最も高いものの、一方で、「祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である」(21.3%)、「祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」(22.5%)「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(22.0%)と祖父母等の負担を心配しながらみてもらっている割合も高くなっています。

○前回調査と比較すると、特に「祖父母等の親族の身体的、精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」の割合が増加しています。

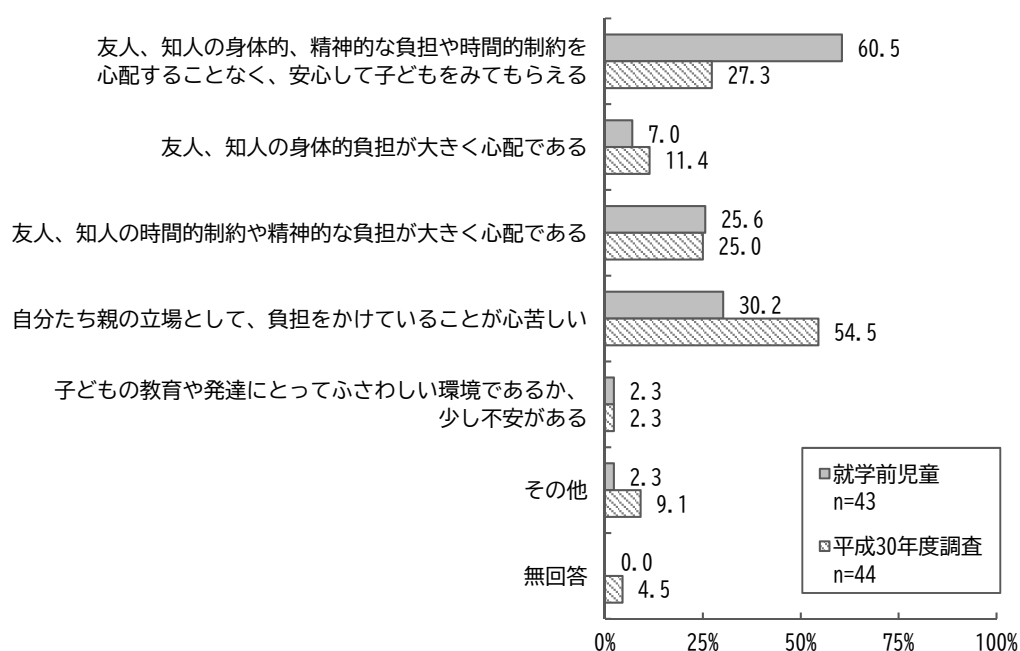
問9-1 祖父母等の親族に子どもをみてもらうことへの考え(経年比較)(複数回答)



○友人、知人に子どもを預かってもらっている状況をみると、就学前児童では「友人、知人の身体的、精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」(60.5%)が最も高いものの、一方で、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(30.2%)「友人、知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」(25.6%)と回答した方の割合も高く、友人、知人の負担を心配しながらみてもらっている状況です。

○前回調査と比較すると、特に「友人、知人の身体的、精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が増加し、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が減少しています。

問9-2 友人、知人に子どもをみてもらうことへの考え(経年比較)(複数回答)



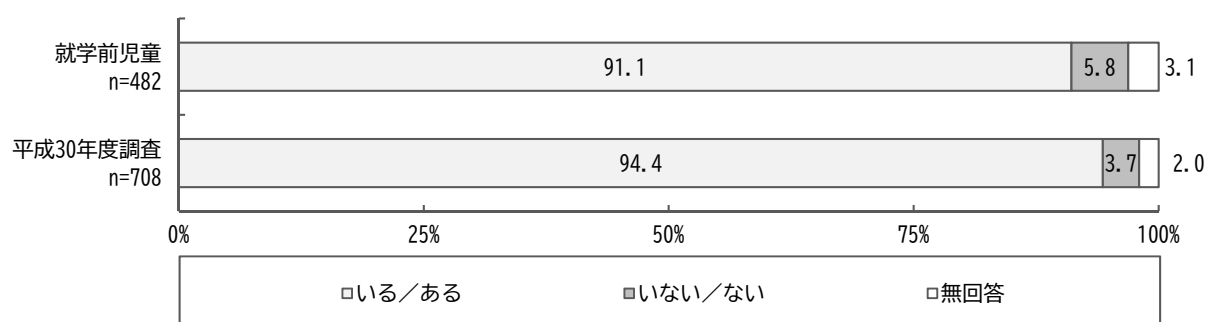
(2) 子育てに関する相談者の状況

○気軽に相談できる人の有無をみると、「いる／ある」が就学前児童では9割となっています。前回調査と比較すると「いる／ある」が減少しています。

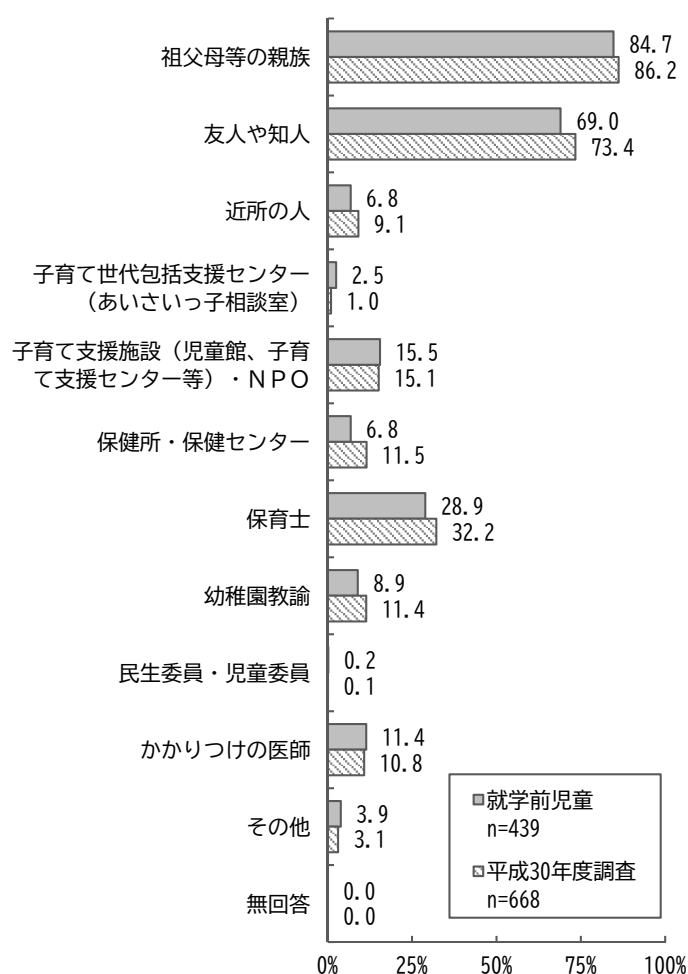
○気軽に相談できる人の状況をみると、就学前児童では「祖父母等の親族」(84.7%)が最も高く、次いで「友人や知人」(69.0%)となっています。

○前回調査と比較すると、特に「保健所・保健センター」「友人や知人」の割合が減少しています。

問10 子育てに関して気軽に相談できる人(場所)の有無(経年比較)



問10-1 気軽に相談できる人(経年比較)(複数回答)



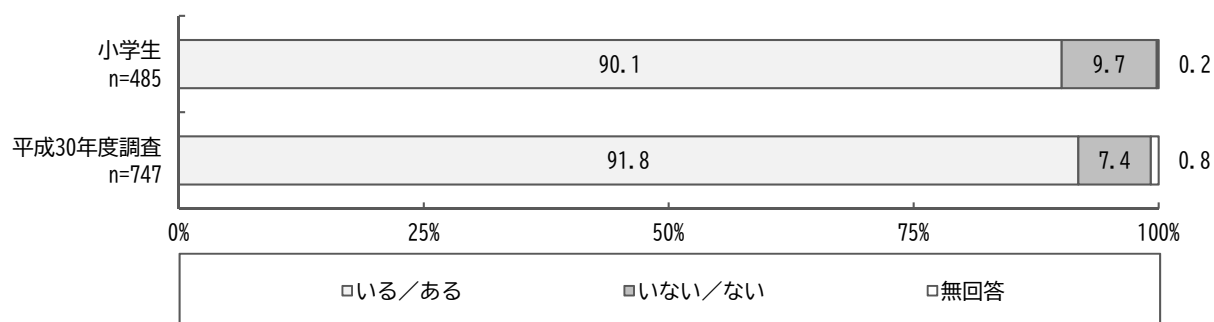
○気軽に相談できる人の有無をみると、「いる／ある」が小学生では9割となっています。

前回調査と比較すると「いる／ある」が減少しています。

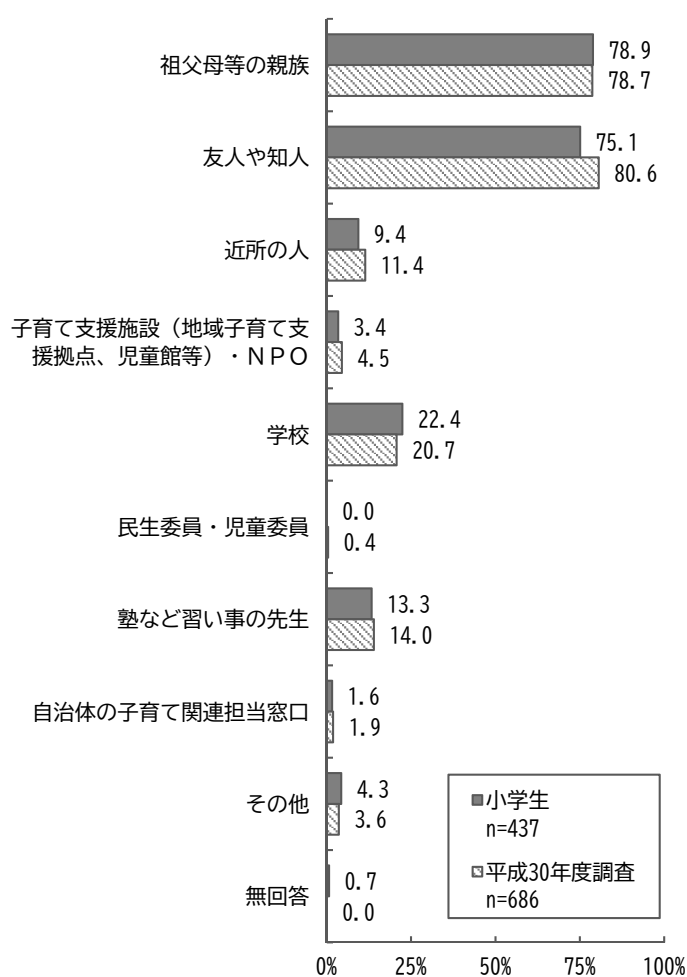
○気軽に相談できる人の状況をみると、小学生では「祖父母等の親族」(78.9%)が最も高く、次いで「友人や知人」(75.1%)となっています。

○前回調査と比較すると、「友人や知人」が減少しています。

【問10】子育てに関して気軽に相談できる人(場所)の有無(経年比較)



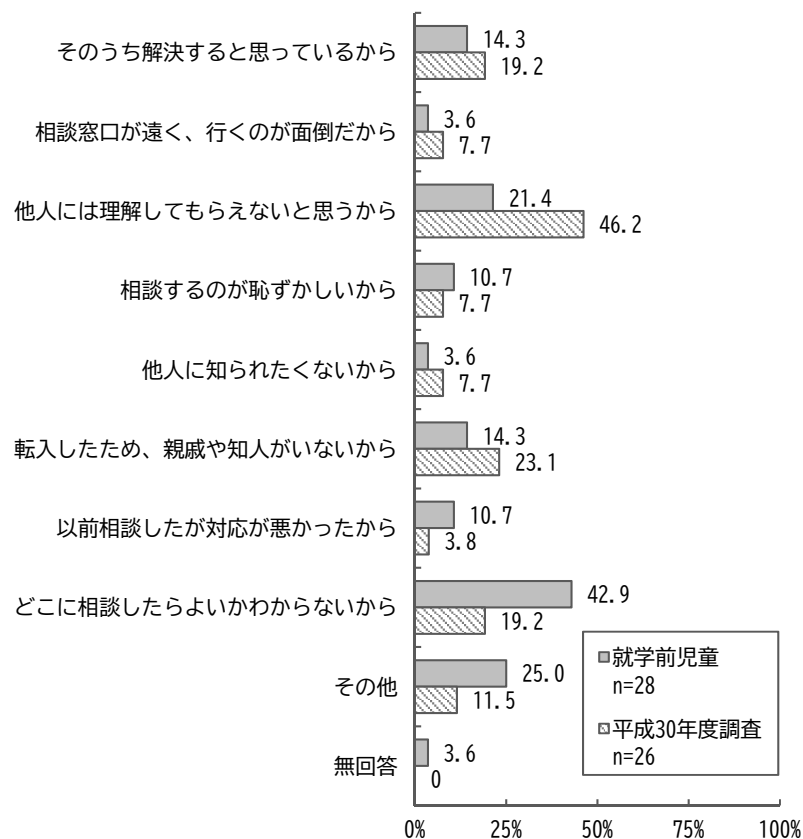
【問10-1】気軽に相談できる人(経年比較)(複数回答)



○気軽に相談できる人がいない、相談先がない理由をみると、就学前保護者では、「どこに相談したらよいかわからないから」(42.9%)が最も高く、次いで「他人には理解してもらえないと思うから」(21.4%)となっています。

○前回調査と比較すると、特に「どこに相談したらよいかわからないから」の割合が増加し、「他人には理解してもらえないと思うから」「転入したため、親戚や知人がいないから」の割合が減少しています。

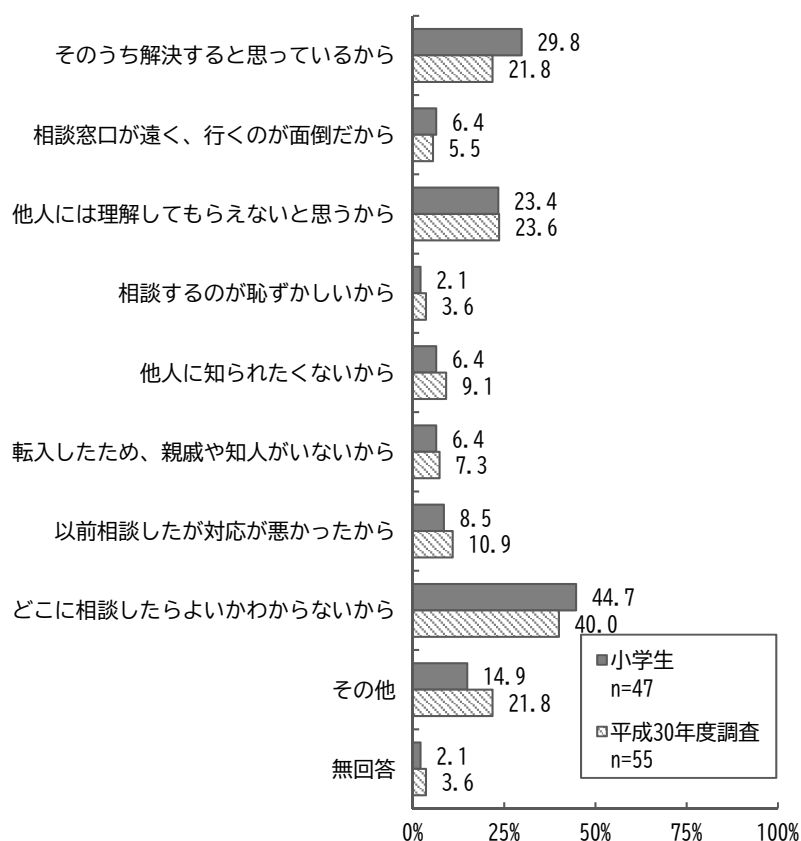
問10-2 気軽に相談できる人がいない、相談先がない理由(経年比較)(複数回答)



○気軽に相談できる人がいない、相談先がない理由をみると、小学生では、「どこに相談したらよいかわからないから」(44.7%)が最も高く、次いで「そのうち解決と思っているから」(29.8%)となっています。

○前回調査と比較すると、特に「そのうち解決と思っているから」の割合が増加し、「どこに相談したらよいかわからないから」の割合が増加しています。

〔問10-2〕気軽に相談できる人がいない、相談先がない理由(経年比較)(複数回答)



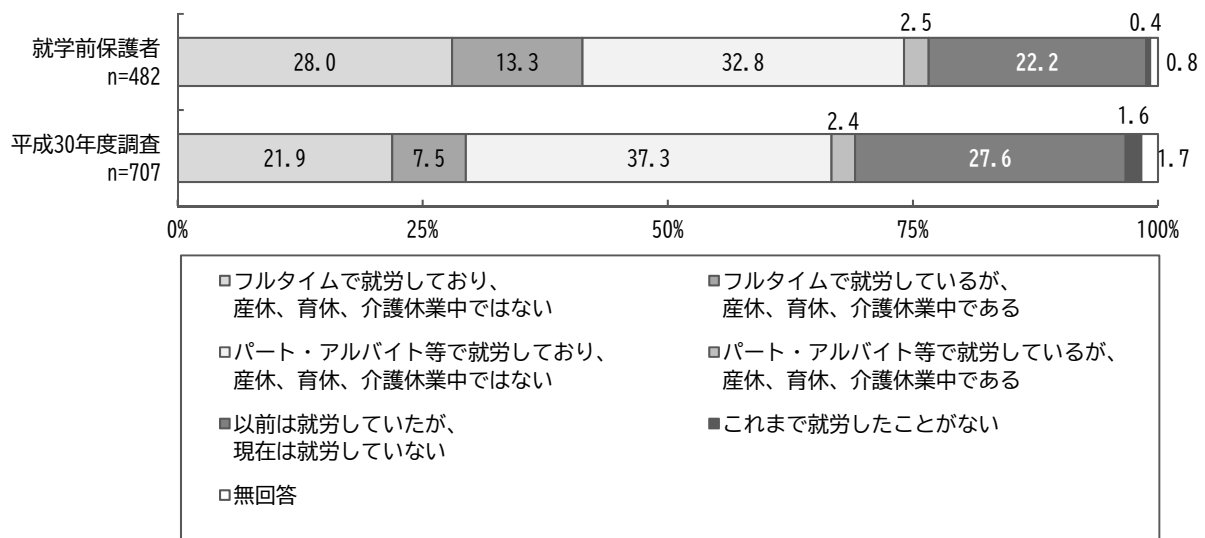
2 保護者の就労状況

(1) 母親の就労状況

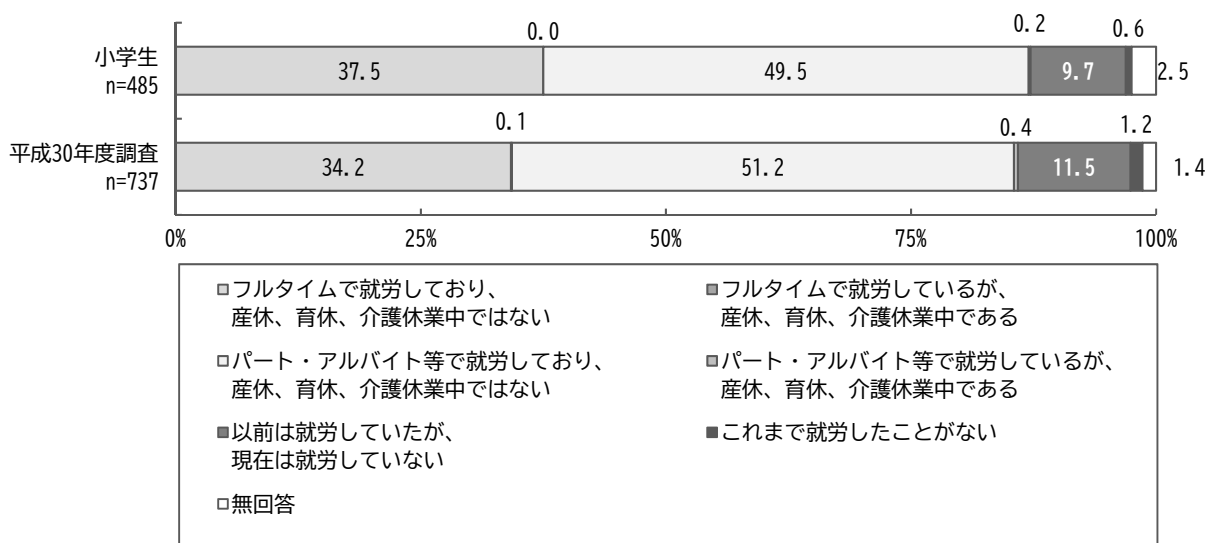
○母親の就労状況をみると、「フルタイムで就労している」「パート・アルバイト等で就労している」（産休・育休・介護休業中含む）を合わせた現在就労している方は、就学前児童が76.6%、小学生が87.2%となっています。そのうち産休、育休、介護休業を取得中の方は、就学前児童が15.8%、小学生が0.2%となっています。

○前回調査と比較すると、就労している母親は、就学前児童が7.5^{ポイント}、小学生が1.3^{ポイント}高くなっています。

問12 母親の就労状況(経年比較)



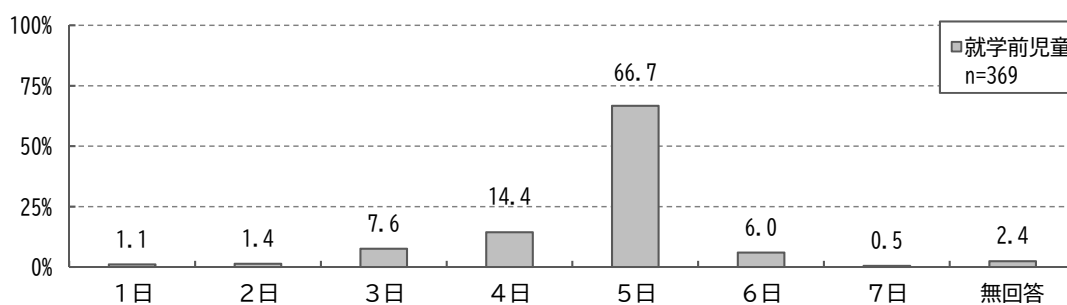
〔問7〕 母親の就労状況(経年比較)



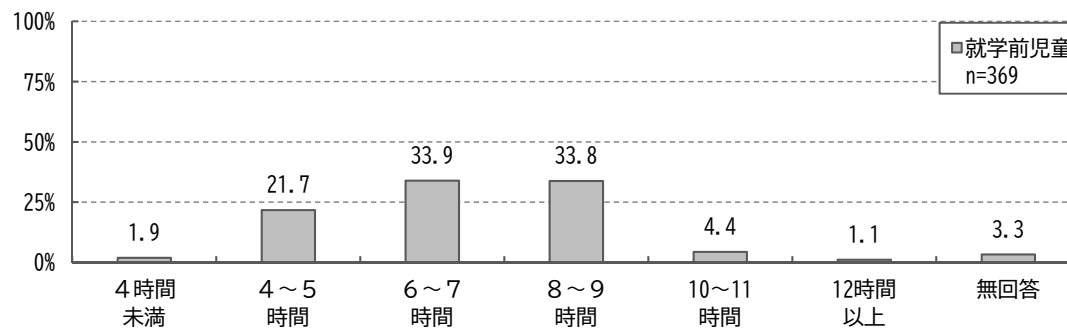
○母親の就労日数をみると、就学前児童では「5日」(66.7%)が最も高く、次いで「4日」(14.4%)、「3日」(7.6%)となっています。

○母親の就労時間をみると、就学前児童では「6～7時間」(33.9%)が最も高く、次いで「8～9時間」(33.8%)、「4～5時間」(21.7%)となっています。

問12-1 母親の就労日数(1週当たり)



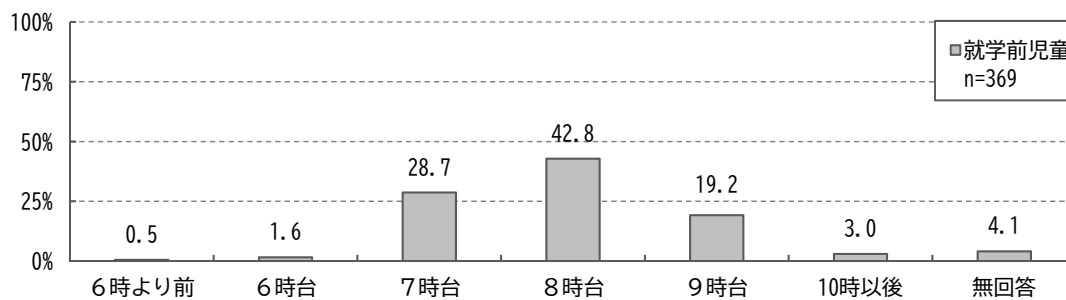
問12-1 母親の就労時間(1日当たり)



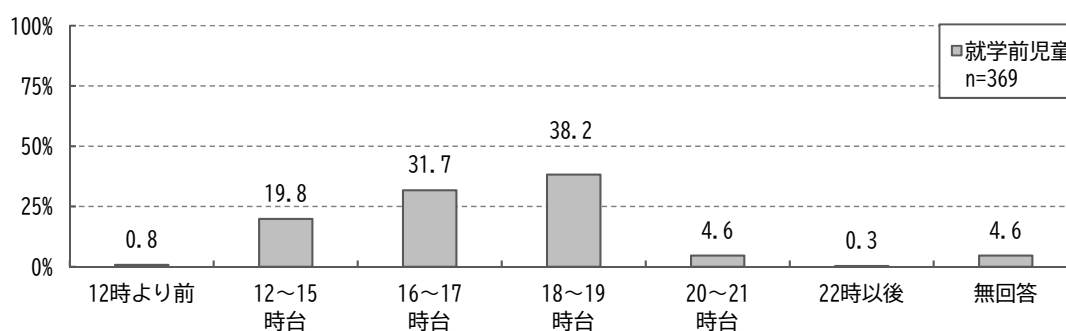
○母親の家を出る時刻をみると、就学前児童で、「8時台」(42.8%)が最も高く、次いで「7時台」(28.7%)、「9時台」(19.2%)となっています。

○母親の帰宅時刻をみると、就学前児童で、「18～19時台」(38.2%)が最も高く、次いで「16～17時台」(31.7%)となっています。

問12-2 母親の家を出る時刻

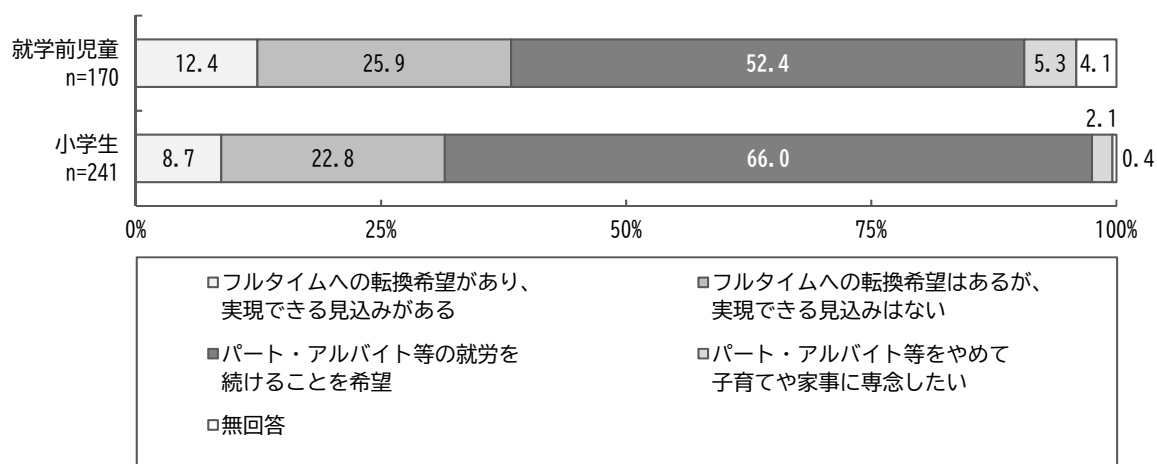


問12-2 母親の帰宅時刻



○母親のフルタイム勤務に対する意向をみると、就学前児童、小学生いずれも「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」と回答した方が半数以上を占めています

問12-3[問7-1] 母親のフルタイム勤務に対する意向

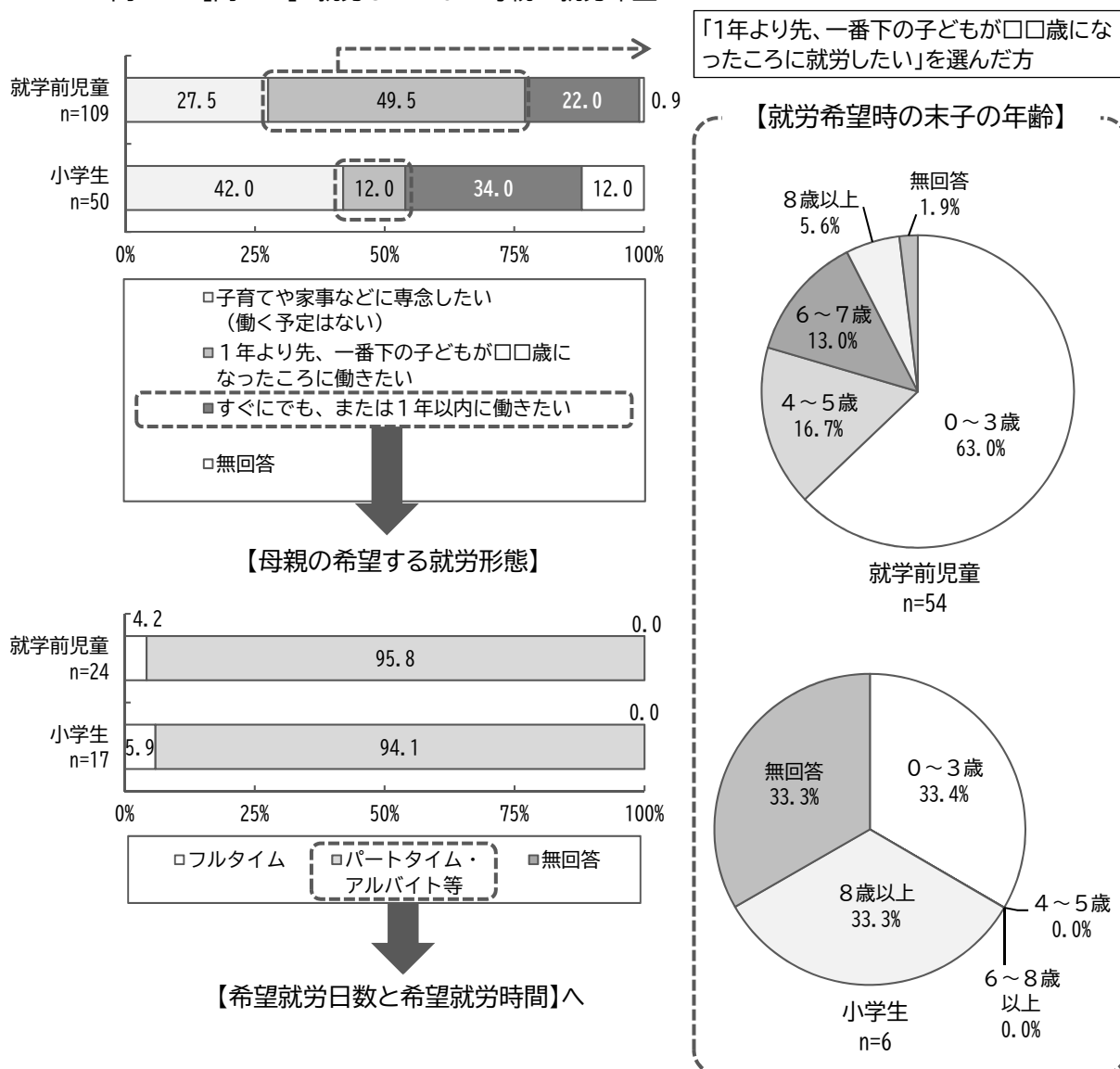


○現在就労していないが、今後就労したい母親の希望をみると、就学前児童では71.5%となっており、その内訳は「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに働きたい」(49.5%)、「すぐにでも、または1年以内に働きたい」(22.0%)となっています。小学生では46.0%となっており、その内訳は「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに働きたい」(12.0%)、「すぐにでも、または1年以内に働きたい」(34.0%)となっています。

○現在就労していないが、今後就労したい母親の希望する就労形態をみると、就学前児童では「パートタイム・アルバイト等」(95.8%)、「フルタイム」(4.2%)となっています。小学生では「パートタイム・アルバイト等」(94.1%)、「フルタイム」(5.9%)となっています。

○現在就労していないが、今後就労したい母親の希望する就労時期となる子どもの年齢は就学前児童では「0～3歳」(63.0%)、小学生では「0～3歳」(33.4%)が最も高くなっています。

問12-4[問7-2] 就労していない母親の就労希望

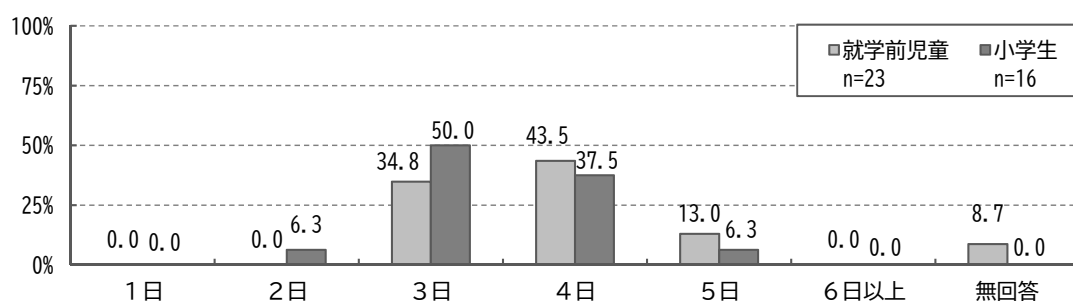


○パートタイム・アルバイト等での就労を希望する母親の希望就労日数をみると、就学前児童では「4日」(43.5%)が最も高く、次いで「3日」(34.8%)となっています。

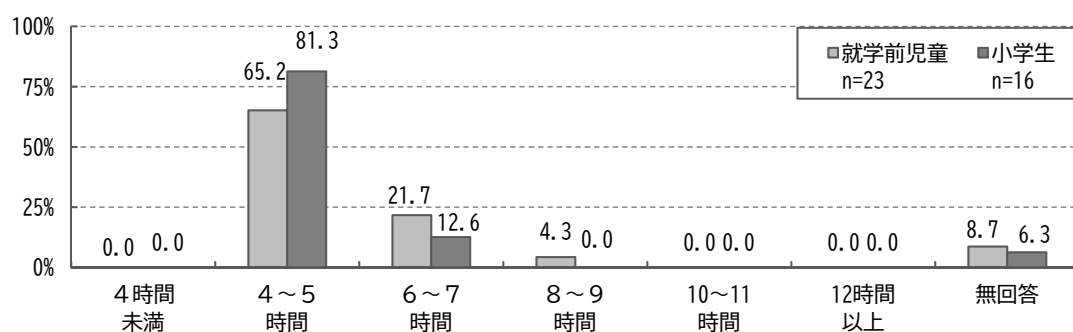
小学生では「3日」(50.0%)が最も高く、次いで「4日」(37.5%)となっています。

○パートタイム・アルバイト等での就労を希望する母親の希望就労時間をみると、就学前児童、小学生いずれも「4～5時間」(就学前児童65.2%、小学生81.3%)が最も高く、次いで「6～7時間」(就学前児童21.7%、小学生12.6%)、となっています。

問12-4[問7-2] パートタイム・アルバイト等希望の母親の希望就労日数(1週当たり)



問12-4[問7-2] パートタイム・アルバイト等希望の母親の希望就労時間(1日当たり)

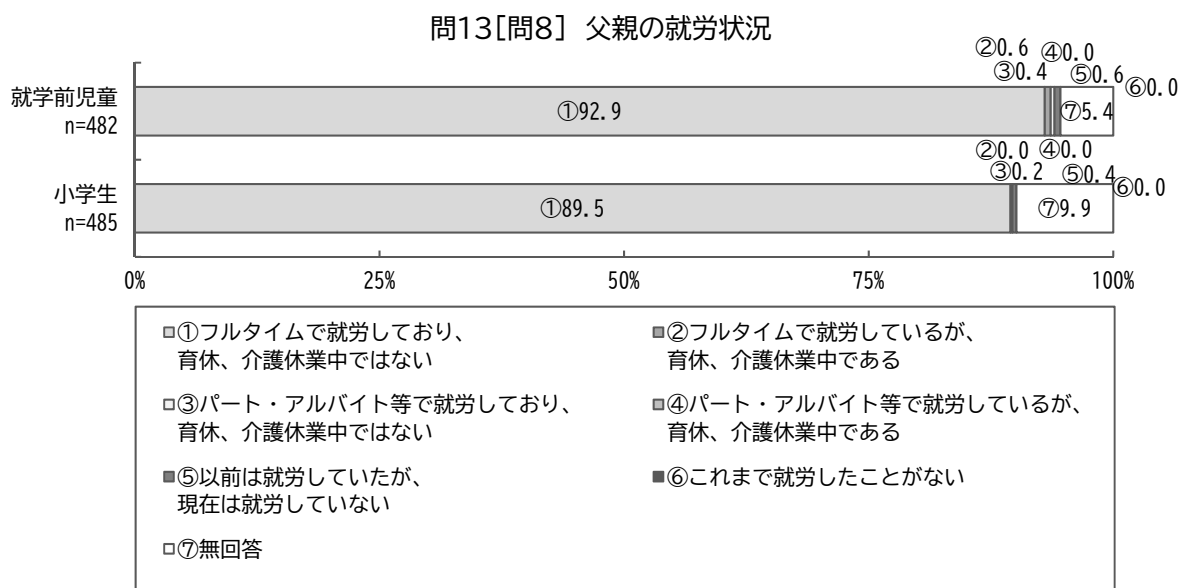


(2) 父親の就労状況

○父親の就労状況をみると、就学前児童、小学生いずれも約9割が「フルタイムで就労している」「パート・アルバイト等で就労している」となっています。

○父親の就労日数をみると、就学前児童では「5日」(70.6%)が最も高く、次いで「6日」(24.9%)となっています。

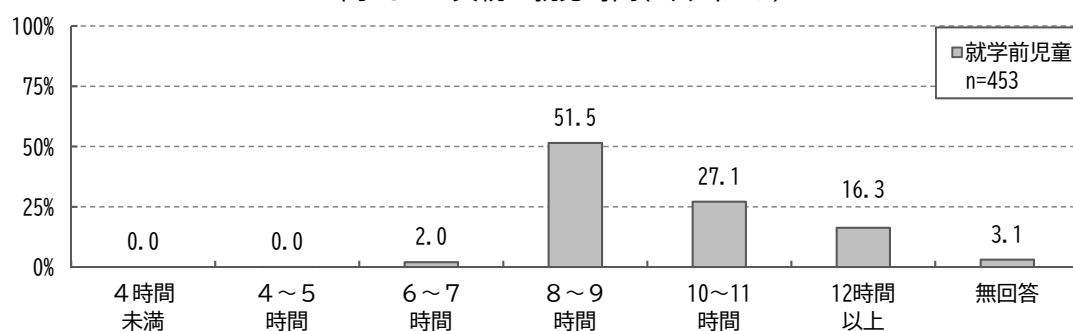
○父親の就労時間をみると、就学前児童では「8～9時間」(51.5%)が最も高く、次いで「10～11時間」(27.1%)、「12時間以上」(16.3%)となっています。



問13-1 父親の就労日数(1週当たり)



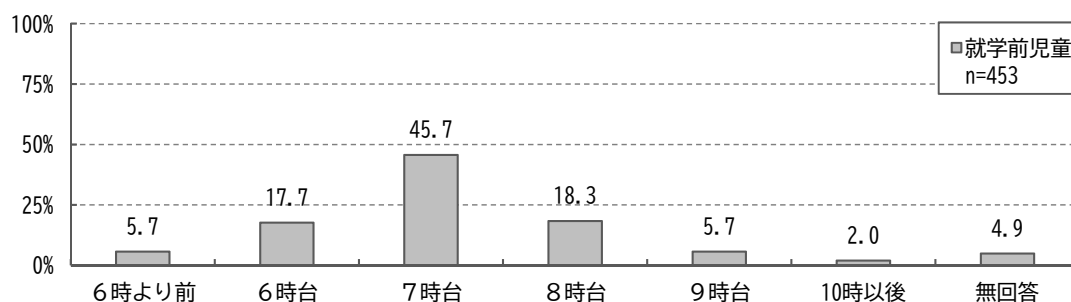
問13-1 父親の就労時間(1日当たり)



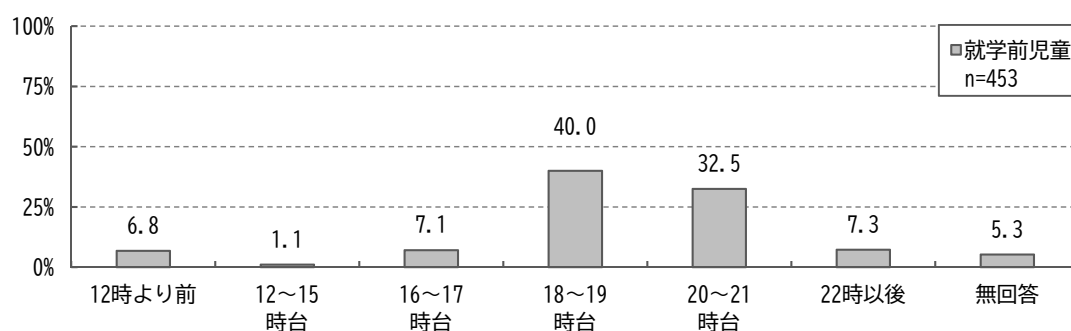
○父親の家を出る時刻をみると、就学前児童では「7時台」(45.7%)が最も高く、次いで「8時台」(18.3%)、「6時台」(17.7%)となっています。

○父親の帰宅時刻をみると、就学前児童では「18～19時台」(40.0%)が最も高く、次いで「20～21時台」(32.5%)、「22時以降」(7.3%)となっています。

問13-2 父親の家を出る時刻

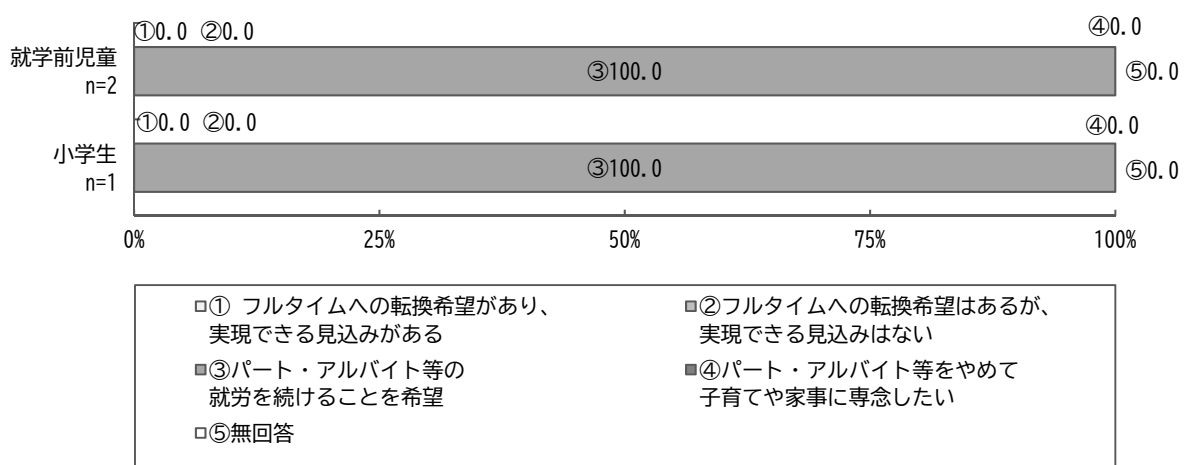


問13-2 父親の帰宅時刻



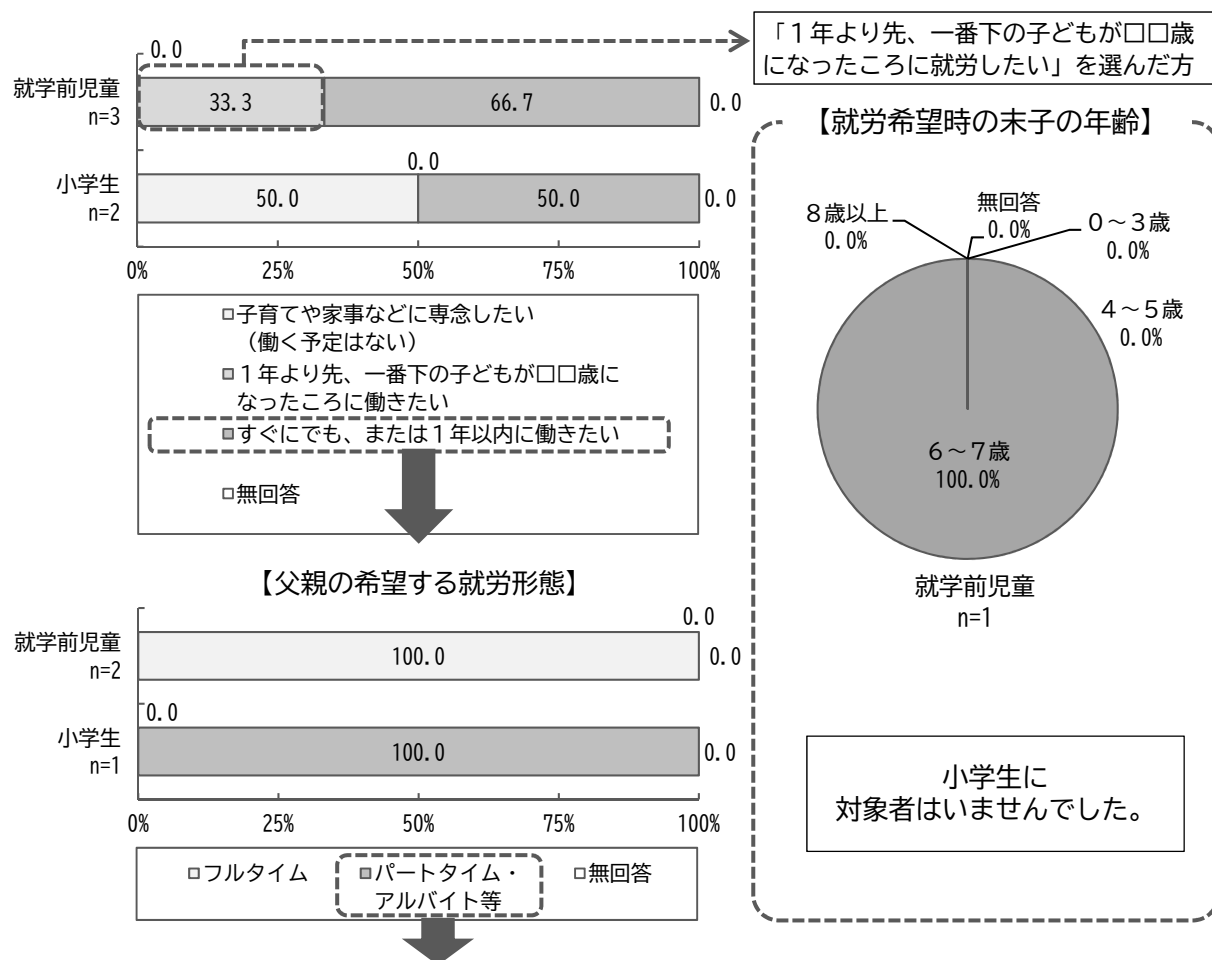
○父親のパートタイムからフルタイムへの転換意向は以下のとおりです。

問13-3[問8-1] 父親のフルタイム勤務に対する意向

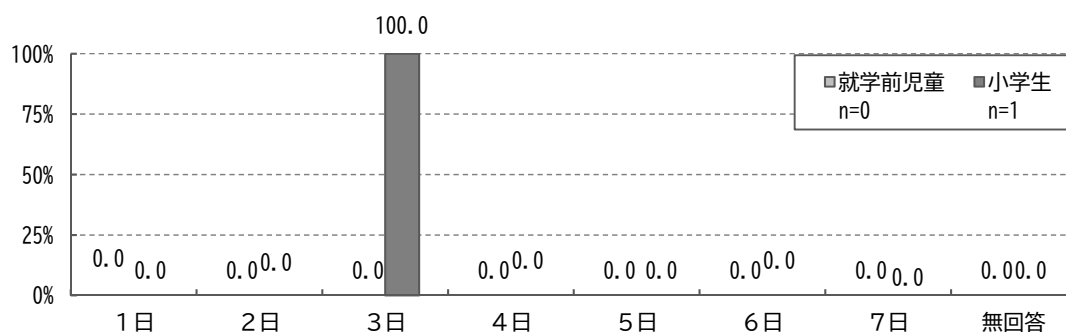


○現在就労していない父親の今後の就労意向は、以下のとおりです。

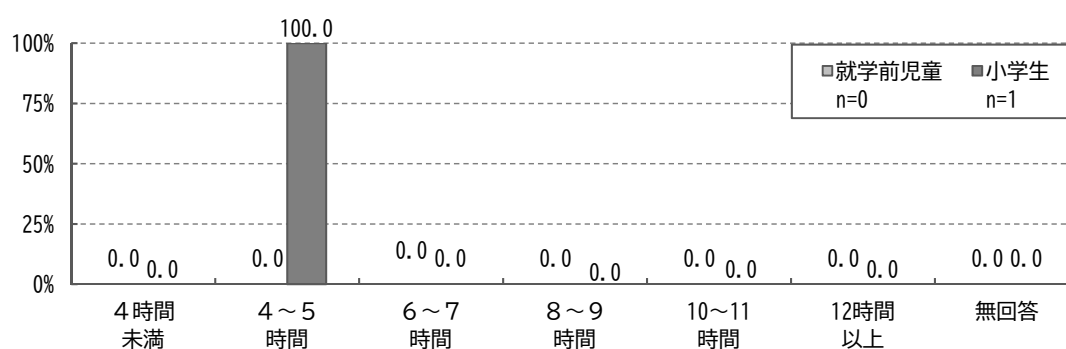
問13-4[問8-2] 就労していない父親の就労希望



問13-4[問8-2] 就労希望のある父親の希望就労日数(1週当たり)



問13-4[問8-2] 就労希望のある父親の希望就労時間(1日当たり)



3 子育て家庭を取り巻く環境における分析、課題

課題等の抽出にあたっては、分析を通して考察と課題抽出等を行いました。

結果1 周囲の援助が得られない、孤立した子育て環境にいる保護者は 就学前児童で8.5% 小学生で11.5%

子育てに関する親族、知人等の協力者の状況は、就学前児童、小学生の保護者ともに、9割以上が日常的、または緊急時、用事の際に祖父母等の親族に子どもをみてもらえると回答しており、大半の保護者は協力を得られる状況です。

その一方で、協力者が「いずれもない」と回答した、孤立した子育て環境にいる保護者は就学前児童で8.5%、小学生で11.5%となっています。【問9、[問6]】



以上の結果から、孤立した子育て環境にいる保護者に対してどのような子育て支援が必要とされ、有効であるかの把握が依然として課題となっています。引き続き、様々なニーズに即した子育て支援施策の実施を進める必要があります。

結果2 子育てをする上で気軽に相談できる相手（先）がいない保護者は 就学前児童で5.8%、小学生で9.7%

子育てをする上で気軽に相談できる相手（先）が、「いる／ある」と回答した保護者は、就学前児童、小学生いずれも9割となり、その相手として就学前、小学生いずれも「祖父母などの親族」、「友人や知人」などの身近な人達となっています。

身近な親族や友人、知人以外では、就学前児童は「保育士」（28.9%）の割合が高く、小学生では「学校」（22.4%）となっています。対照的に「民生委員、児童委員」、「子育て世代包括支援センター」「保健所・保健センター」などの公的機関をあげた割合は就学前児童、小学生いずれも1割未満となっています。

また、気軽に相談できる相手（先）が「いない／ない」と回答した保護者は、就学前児童で5.8%、小学生で9.7%となっています。

気軽に相談できる人がいない、相談先がない理由として「どこに相談したらよいかわからないから」「そのうち解決すると思っているから」「他人には理解してもらえないと思うから」が高くなっています。【問10・問10-1・問10-2、[問10・問10-1・問10-2]】



前回調査（2018年）と比較すると、気軽に相談できる相手（先）が「いない／ない」と回答した保護者は、就学前児童では2.1ポイント減少、小学生では2.3ポイント増加しています。

また、気軽に相談できる人がいない、相談先がない理由として「どこに相談したらよいかわからないから」が就学前児童では23.7ポイント増加しています。

以上の結果から、相談場所の広報や相談することができる公的な機関の充実、教育・保育施設等との連携、活動内容の周知、アクセスしやすく気軽に相談できる体制づくりなどについて引き続き実施するとともに、ニーズに即した新たな支援施策についても検討する必要があります。

結果3 母親の就労率（育休等を含む）は就学前児童で76.6%、小学生で87.2%

母親の就労状況（産休・育休・介護休業中含む）をみると、就学前児童が76.6%、就学児童が87.2%となり、そのうち産休、育休、介護休業中の方は、就学前児童で15.8%、小学生で0.2%となっています。

母親の就労日数は、就学前児童では「5日」（66.7%）が最も高くなっています。

母親の家を出る時刻は、就学前児童では「8時台」（42.8%）が最も高く、次いで「7時台」（28.7%）となり、また、帰宅時刻は就学前児童では「18時～19時台」（38.2%）が最も高くなっています。

【問12・問12-1・問12-2、[問7]】



前回調査（2018年）と比較すると、母親の就労率（育休等を含む）は、就学前児童が7.5^{ポイント}、小学生が1.3^{ポイント}増加しています。

以上の結果から、前回調査よりも就労する母親がさらに増加していることから、定期的な教育、保育事業については、就労実態に即した事業体制を整える必要があります。